

一昨年十月末に半世紀前に居住してありし世田谷區奥澤へ戻りぬ。田園調布の病院において生まれ、祖父母や父の兄弟とその家族住みし千坪の敷地内の本家の長女として育つ。幼稚園は田園調布カトリック教會運営の「小さき花の幼稚園」を卒園。小學校は我が家の眞前に建つ八幡小學校へ入學す。當時奥澤や自由が丘は空地多く、子供の遊び場としては最高の環境なり。自由が丘の河川にて釣りをせし記憶あり。今では遊歩道になり、若者の人気スポットとなりたり。その變容ぶりには驚嘆す。田園調布の家並みは多少小ぶりの家多くなりしが、港區等とは比べ物にならざるほど大きな家立ち並び、銀杏の並木は以前と變はらず。

一九五十年代前半のある日小學校にて校庭に整列させられ、DDTらしき粉を頭に振りかけられし記憶あり。シラミ駆除と思ふに、今日ならば批判的とならむこと間違ひなし。映畫の上映も校庭にて時折あり、白きシーツのごとき布きれ所謂「スクリーン」の代用なりしが、風になびき、畫面亂れ何を見たりや良く分からざる事多々あり。一年生の中程に父の赴任地パリへ移りき。プロペラ機に搭乗し、三日がかりにてパリへ到着す。エールフランス機にてマニラ、サイゴン、ボンベイ、カラチ、カイロの順に燃料補給のため立寄りきと覺ゆ。現地の小學校に入學したるも、言葉通ぜず、トイレ行くにも難儀なる有様。いはんや授業につき行く事も多難にて、教科書の一頁暗記せよとの指示頻繁にありても、フランス語讀めず、暗記するすべもなし。當時、學校には體罰ありて、耳を引張るは日常茶飯事、兩手のひらを下に教師の前に出せと命じ、その上を定規にてピシッと叩く。赤き跡つき、その痛き事。何とかせねばと思慮し、文字を繪のごとく頭に焼き付け、そのまま書くことに成功。しかし、意味は分からず、音讀も能はず。早期に環境に慣れしめむとの父の方針にて家の中にありてもフランス語にて會話すること強要せられたり。徐々にフランス語會話上達す。當時は日本語の情報皆無にて、逆に、日本語をば忘れつ。

十六區に居住してをり、學校にはブローニユの森を徒歩にて横切り通ふ。片道二十分。パリの冬は厳しく、スキー帽のごとく頭にすつぽりかぶる帽子を着用す。空は灰色にて重くのしかかる。晝休みは自宅に戻り食事すとの決まりにて、毎日二往復しき。運動會などはなく、毎年一回學校の堀に沿ひ走り回る競技のごときもの記憶に残れり。砂利道にて轉ぶの怖く、早く走ること能はず。

そのうち、フランス語達者なる日本人の子供として、フランス人の子供と對談しながら映像を追ふテレビの一時番組に出演のことあり。映像を見ながら自分の意見勝手に

言はば良しと言はれ、何を話せしの記憶は殆どなけれど、寫真にて、そのやうに理解す。ドローン厚く顔に塗られ、いと不快に思ひし覚えあり。

三年半後東京に戻りし時はすでに日本語話せず、上述の小學校においては日本語解せぬ子供の入學不可と斷られり。田園調布雙葉院長不在なるも同じ事言はれ、白金の聖心女子學院のみ入學を承諾せらる。雙葉の院長東京に戻り、入學承諾の傳達あるも既に、聖心に月謝支拂ひ済み。聖心には英語の授業あり、日本語と英語を一より勉強せねばならずかなり難儀しき。また、當時は一年後に制服變はる時期とて、吾のみフランスの學校の制服着用してをり、かなりクラスメートにからかはれし苦き思ひ出あり。

パリの學校の思ひ出辛かりしたためか、フランス語我が腦より完全に缺落せり。残るは素晴らしき發音のみ。仕事にてパリ出張等ありし際は、反射的にフランス語話するを得れども、何々を言はむ等と思ひても、文章頭に浮かばず。米國の中學・高校でもフランス語はクラス一なれど、會話すること能はず。何時の日か腦中どこぞの引き出し開きて突然思ひ出さざらむと興味あり。